

(管理規則第3条実施要領 別紙様式)

## 2014年度(平成26年度)学校評価自己評価表

済美中学校区	校番18	福山市立 瀬戸 小学校
--------	------	-------------

### I 福山市 めざす子ども像

福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子ども

### II 中学校区

#### 1 めざす子ども像

《中学校卒業時、生徒につけたい力のイメージ》  
 ○生き方を判断するための「基礎学力」を身につける。  
 ○かかわり合いながら「伝え合う力」を身につける。  
 ○目標に向かって努力し、「やりきる」ことができる児童・生徒を育てる。

#### 2 児童生徒の現状

○教育研究の継続的な取組により一部にはその成果がみられるものの、基礎的・基本的な学力の定着には、依然として厳しい実態がある。とりわけ、思考力や表現力、主体的な学習態度などに課題がみられ、家庭学習の習慣も十分定着しているとはいえない。  
 ○元気で活発な反面、人とのかかわりや自分の気持ちや言葉を言葉で伝えることを苦手とするなど、自分自身に自信を持ってない児童・生徒が多くみられる。生活と学習に関する意識・実態調査では、「将来の夢や目標を持っている」などの項目に課題がみられ、自己肯定感や自己実現力を高めることが課題である。また、「学校や社会のルールを守っている」の項目にも課題がみられ、基本的生活習慣の確立や規範意識の高揚を図る必要がある。  
 ○欠席日数が30日を越える生徒の割合や、特別な支援を必要とする児童生徒の割合が高い。

#### 3 課題

○基礎的・基本的な学力の定着                      ○基本的生活習慣の確立  
 ○規範意識の醸成                                      ○不登校児童生徒の減少

### III 自校

#### 1 学校教育目標

よく考え、豊かな心と生きる力をもった子どもの育成

#### 2 経営理念

##### (1) 中学校区における自校の使命(ミッション)

ふるさと瀬戸町を愛し、誇れる、きらきらかかやく瀬戸っ子を育てる。

### (2) 使命の追求を通じて実現しようとする自校の将来像(ビジョン)

**学校像** ・活力みなぎる学校 ・安心して過ごせる学校 ・地域とともに歩む学校  
**子ども像** ・自ら学び、自ら考える子 ・心豊かでたくましい子  
**教職員像** ・教育に対する情熱と使命感を持つ教職員 ・明るく元気で支え合う教職員  
 ・義務教育9年間を見通し、子どもの進路を保障していく教職員 ・子どもの良さを引き出す教職員

### 3 前年度重点目標と達成状況

前年度重点目標	達成状況
1 基礎・基本の学力の定着をさせる。	算数科の全国標準継続的学力検査で、全国平均以上達成の学級は66.7%だった。未達成の学級全て全国平均にあと一歩に近づいたが、目標を達成させたい。
2 子どもの自己肯定感を高める。	子どもの良い所を認めほめて伸ばし、自信を持たせる取組として「褒め達人」を認定(90%)した。

### 4 本年度重点目標と設定理由

重点目標	設定理由
1 基礎基本の学力の定着をさせる。	基礎基本の学力の定着に課題があり、生徒指導の3機能をいかした授業づくり、家庭学習や補充学習の充実、学習規律の徹底に取り組んでいく。
2 子どもの自己肯定感を高める。	自分自身に自信が持てない児童が多く、積極的な生徒指導を通して、規範意識を高めるとともに、児童の自己肯定感を高揚させる。

### 5 前年度の学校関係者評価結果を踏まえた改善点

- ・学校・保護者・地域が連携・協力して目標達成に向けた取組を行う。
- ・地域・保護者への積極的な情報発信を行う。
- ・評価項目・指標等の分かりやすさ明確化に取り組む。

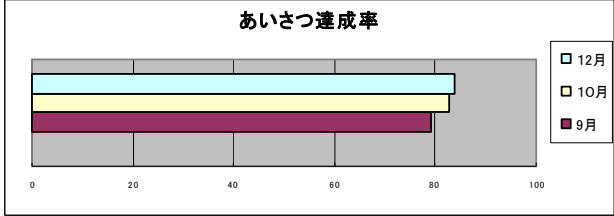
### ※ 評価基準

評価・指標評価	基準	
A・a	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた
B・b	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた
C・c	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた
D・d	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった
E・e	40%未満の達成度	目標を達成できなかった

自己評価(中間)の基準は、10月20日までの計画に対する達成状況とする。

IV 目標・評価項目・指標等の設定と評価

市重点 目標	年 目	中期経営目標	重 点	分類	短期経営目標	(最終) 評価	評価項目・指標等 (△成果 ▽取組み に着目)	(最終) 指標 評価	□ 評価項目・指標等 ○ 短期(中期)経営目標 の達成状況 ◎ 改善方針			
確かな学力	2	基礎学力の定着を図る教育活動の推進	★	継続	基礎・基本の学力の定着を図る。	B	△算数の全国標準診断的学力検査(CDT)で、全国平均以上のクラスを100%にする。  △国語・算数の単元末テストで達成率85%以上にする。	b	□1月にCDT学力検査を実施。 ○達成率 国語・・・1年85%・2年85%・3年74%・4年82%・5年71%・6年83%, 算数・・・1年90%・2年87%・3年75%・4年82%・5年65%・6年82% 目標を達成したのは国語6/14, 算数8/14学級であった。 ◎結果分析を行い、課題問題に対して類似問題を作成・実施し、習得を図る。 □1月に国語・算数の単元末テストを実施。 ○達成率 国語・・・1年86.0%・2年95.7%・3年82.3%・4年91.0%・5年84.0%・6年88.2%, 算数・・・1年90.4%・2年90.6%・3年85.4%・4年86.6%・5年80.0%・6年76.0% ◎各学年授業改善チェックリストをもとに、国語科では「読むこと」「書くこと」、算数科ではどのように答えを求めたか図・表・順序を表す言葉を使う等自分の考えを表現させて「筋道立てて説明する」力をつける。			
							△家庭学習をやりきる児童を85%以上にする。(低学年30分以上, 中学年45分以上, 高学年60分以上)		a	□家庭学習やりきり週間 計画通り実施(4回) 2月実施予定。 ○達成率5月86.6% 6月89.4% 10月86.1%12月89.0% 家庭学習やりきり週間を行うことで、児童・保護者への意識づけとなり、意欲を持って家庭学習に取り組める児童が増えてきている。  <table border="1"> <caption>めあて勉強時間達成率</caption> <thead> <tr> <th>月</th> <th>達成率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5月</td> <td>86.6%</td> </tr> <tr> <td>6月</td> <td>89.4%</td> </tr> <tr> <td>10月</td> <td>86.1%</td> </tr> <tr> <td>12月</td> <td>89.0%</td> </tr> </tbody> </table> ◎固に応じた家庭学習を考えて出すようにし、やりきったという達成感を味わわせていく。	月	達成率 (%)
月	達成率 (%)											
5月	86.6%											
6月	89.4%											
10月	86.1%											
12月	89.0%											

豊かな心	2	豊かな心の育成を図る積極的な生徒指導の推進	★	継続	規範意識を育成する。	B	<p>△「自分から進んであいさつができる」児童を85%以上にする。</p>	<p>b</p> <p>□児童会によるあいさつ運動・児童朝会の中で全校児童への呼びかけ。 ○達成率83.8% あいさつをしようという意識は高まってきたが個により差は大きい。</p>  <p>○済美中学校区全体で、児童会・生徒会がリーダーシップをとり、自分から進んであいさつができるようにしていく。また、「さわやかあいさつ運動」を行い、良いあいさつをしている児童を認め評価していく。</p>
							<p>▽「友達の良い所を見つけられる」児童（ほめ達人）をふやし、児童の自己肯定感を高める。</p> <p>△学校のきまり（ベル着・ネーム・シャツ入れ）を守ることで児童の割合を85%以上にする。</p>	<p>a</p> <p>□児童の良いところをみつけほめる。 ○達成率71.2% 児童同士ほめ合う場を設定し自己肯定感を高めてきた。 ◎給食放送「にっこり玉手箱」を活用して教職員・児童より良い活動をしている児童を紹介する。また、朝会や学級の帰りの会等でも教師が意識的にほめる。 □各学級で点検・ベル着は大休憩後の3校時と5校時始めに点検 ○達成率92.8% チャイムを守り授業準備ができるようになってきている。ネーム忘れの児童は固定化している。シャツ入れについては児童自ら意識しほめできるようになってきた。 ◎朝会等で良くなったところはほめ、直すところを分かりやすく伝えていく。</p>
力量ある教職員	2	中学校区と連携をし、教育の専門性の向上		継続	授業力の向上を図る。(生徒指導の三機能、言語活動の場を設定)	A	<p>△授業改善の視点(生徒指導の三機能、言語活動)に基づいた、授業研修における肯定評価を85%以上にする。</p>	<p>a</p> <p>□生徒指導の三機能を生かした授業改善シートによる授業評価を行う ○達成率99.0%である。 ◎授業研究においては、指導案に生徒指導の三機能、言語活動を記入し学力向上に向けた授業を行うことができた。また、児童の思考力・表現力を付けるため視覚教材を提示したり ヒントカードを工夫したりして授業改善に取り組むことができた。</p>

(管理規則第3条実施要領 別紙様式)

<p>市民から信頼される学校</p>	<p>2</p>	<p>開かれた学校づくりの推進</p>	<p>継続</p>	<p>保護者や地域とのつながりを深め、信頼される学校をつくる。</p>	<p>A</p>	<p>△小中一貫教育の取組や子どもの良さ・頑張り等を取り入れた「学校だより」やホームページの定期的な更新により、「学校の様子かわかる」保護者を85%以上にする。</p> <p>▽地場産物や旬の食材を使った「料理レシピ」を保護者や地域に配布し、料理教室も実施して家庭の食生活の向上を図る。</p>	<p>a</p>	<p>□学校だより(10号)・校長だより(26号)・学年だより(1年38号・2年13号・3年13号・4年22号・5年23号・6年16号) 月1回以上発行した。</p> <p>○達成率88.0%</p> <p>各たよりでは児童の様子や作文等を掲載し学年・学校の状況や活動内容を発信している。</p> <p>◎伝える時期を逃さず発信したり小中一貫教育の取組を紹介したりすることで、保護者・地域に啓発し、協力を求めている。</p> <p>□「料理レシピ」 月1回発行(現在9号)</p> <p>○家庭で作れる郷土の味を伝えるメニューや給食献立を保護者・地域へ発信している。</p> <p>◎冬季休業中は親子料理教室を実施し、郷土料理やおせち料理を実習し家庭にも生かせるよう努めた。</p>
--------------------	----------	---------------------	-----------	-------------------------------------	----------	---	----------	---